

日本OR学会賞

2013年度学会賞のうち、実施賞、普及賞、業績賞について表彰委員会で選考のうえ、理事会で以下のとおり決定されました。

各賞は2013年3月5日の春季研究発表会（東京大学）にて贈呈されました。

第37回実施賞

● 大阪ガス株式会社

[選考理由]

大阪ガス株式会社では、過去十数年にわたり社内にて分析専門組織を立ち上げ、広範囲な業務にORを導入してきた。具体的には、次の活動がある。

①原料調達効率化

年間5,000億円のLNG調達費を削減するため、契約交渉からタンカー輸送を経てタンク受入れに至るまで、包括的にORを導入した。LNG契約には金融工学を活用した。タンカー輸送には、複雑な制約条件の下で燃費を最小化する数値計画モデルを開発した。タンク受け入れにおいても、大規模非線形混合整数計画モデルを開発した。

②保守業務の効率化

保守車両の配置、保守員の勤務スケジュール、保守部品の予測にORを導入した。これらの問題解決に、数千万件を超えるビッグデータを用いたことは特筆に値する。

③発電所投資判断

発電所の投資判断にあたり、全国の発電所運転をシミュレーションするモデルを開発し、エリアごとに限界発電コストや発電所稼働率を予測し、年間利益100億円以上の電力ビジネスに寄与した。ここでは、ラグランジュ緩和法を用いた独自モデルを用いており、学術的にも価値の高い研究である。

上記以外にも、気象データを活用した業務効率化、収益リスク管理、需要予測、料金設計、顧客ターゲットング、故障診断、テキストマイニングなど、多数の実施例がある。

これらの活動は本学会実施賞にふさわしいと判断され、実施賞を授与することに決定した。

第38回普及賞

● 尾崎俊治氏

[選考理由]

尾崎俊治氏は、信頼性・保全性理論の研究で世界をリードしてきた。マルコフ再生過程に基づいた信頼性評価技術、各種最適保全モデルの解析的研究、ソフトウェア信頼性理論などで卓越した研究業績を残し、わが国における信頼性・保全性理論を世界水準に引き上げ、当該研究分野の啓蒙・普及活動に努めてきた。同氏の指導を受けた多くの学生が、現在、学会・産業界で活躍している。多くの国際研究集会を企画運営し、多くの国際学術雑誌の編集にも携わり、信頼性・保全性理論だけでなくオペレーションズ・リサーチにおける確率モデリング研究全体の水準向上にも大きく寄与した。

本学会においては、大西文献賞受賞（1970年）、事例研究奨励賞受賞（2000年）、中国・四国支部長（1991年-1996年）、平成7年春季研究発表会実行委員長を務めた。本学会フェロー。

これらの活動は本学会普及賞にふさわしいと判断され、普及賞を授与することに決定した。

● 八巻直一氏（静岡大学）

[選考理由]

八巻直一氏は株式会社システム計画研究所においてシステム開発の第一線で活躍すると共に、多くの大学の非常勤講師を務め、1996年以降は静岡大学工学部で研究・教育に従事し、多くの有為な人材を社会に送り出した。

同氏は1980年代初期から多くの人々と協力して非線形最適化のソフトウェアの開発に取り組んだ。その成果はASNOPとして東京大学大型計算機センターから全国の大学・研究機関に提供された。

同氏はORの分野における産学連携の先駆けと言えます。

る活動を展開してきた。非線形最適化の手法を生産や研究に活用するだけでなく、グループAHPを人事評価などさまざまな問題解決に適用したり、国内外の医療機関にOR手法を提案したり、大学の情報セキュリティマネジメントやクラウドコンピューティングの導入にORを実践するなど、産・学や国境などのボーダーを越えて、ORの普及に努めてきた。

本学会においては、「ORソフトウェア」研究部会主査、RAMPシンポジウム実行委員長、理事を務め、ニュースレター立ち上げ、過去の論文のアーカイブ完成に尽力した。本学会フェロー。

これらの活動は本学会普及賞にふさわしいと判断され、普及賞を授与することに決定した。

第14回業績賞

● 相澤りえ子氏

[選考理由]

相澤りえ子氏は、株式会社構造計画研究所のOR部門に35年にわたり在籍し、OR手法を用いて企業の問題解決、学会などでの研究発表、大学での教育等々、ORの研究・普及・教育に携わってきた。

米国で開発された、当時としては最新かつ画期的な離散型／連続型共用シミュレーション言語SLAMを1985年に日本に持ち込み、それをきっかけに多くの問題解決にモデリングとシミュレーションの有効性を実証した。

モデリングとシミュレーションの書物を執筆して普及に務めるとともに、多くの大学で非常勤講師を担当してモデリングとシミュレーションの基礎と応用を教えてきた。

同氏が携わったORの実施活動の代表的なものには、移動体通信システムの最適チャネル割りつけ、生産・物流シミュレーションによる生産システムの最適化、サプライチェーンの最適化等々、多くの企業・政府のR&Dプロジェクトがある。

本学会においては、理事（研究・普及、庶務）、代議員、学会誌編集委員、公益法人化等問題検討委員、ORサロン企画委員などを務めた。本学会事例研究賞、フェロー。

● 山本芳嗣氏（筑波大学）

[選考理由]

山本芳嗣氏は、名古屋工業大学を卒業後、一貫して数理計画法の研究に取り組んできた。具体的には、組合せ最適化・整数計画法の研究（1978–1979年）、均衝点・変分不等式・不動点計算の研究（1979–1990年）、大域的最適化の研究（1990年–現在）に従事している。特に、1988年には本学会文献賞を受賞している。それ以後も活発に研究を続け、最近10年間も30編の論文を内外の論文誌（査読つき）に発表しており、数理計画法とオペレーションズ・リサーチへの理論的貢献は大きい。

また、同氏が指導した学生が複数名、本学会の学生論文賞を受賞するなど、優秀な若手を多数育成してきた。国外の大学との交流にも積極的で、多くの大学の客員教授を務めると共に、本学会の国際的地位の向上に大きな貢献をした。

さらに、若手OR研究者の研究・人材交流支援を目的とするセミナーSSORを受け継いで2001年から継続開催されている「未来を担う若手研究者のつどい@つくば」において講演と共に助言を行うことにより、若手研究者の指導に尽力している。

本学会の役員としては2010–2012年に理事（編集担当）を務め、論文誌の質の向上に尽力した。

[2012年度表彰委員]

中森眞理雄（委員長・東京農工大学）、村松正和（電気通信大学）、河合 一（鳥取大学）、栗田 治（慶應大学）、関谷和之（静岡大学）、滝根哲哉（大阪大学）、半田恵一（(株)東芝）、松井知己（中央大学）、山下英明（首都大学東京）、吉瀬章子（筑波大学）